

心を豊かにする音楽科

< 第6回講座 >

- * 日時 : 2021年10月15日(金) 09:50~11:50
- * テーマ : 「ポルトガルの歌『ファド』を知る」
- * 講師 : 月本 一史氏



月本先生は大学で音楽を専攻され、卒業後ポルトガルへ留学しリスボン市立博物館併設のポルトガルギター育成コースで学ばれました。帰国後は演奏活動の他、ポルトガルギターのメソッド作りや歌手と演奏家の育成、ファドに関する講演など幅広く活動されています。この活動が評価され、2016年にはポルトガルのファド文化行政を司るリスボン市立博物館より初の海外大使として「日本ファド大使」に任命されました。

講義は資料と音源により、ファドの特徴、ファドの歴史、ファドの種類、ファドに欠かせない楽器について詳しく解説されました。ポルトガル旅行で必ず連れていかれるファドの聴けるバーでの演奏を体験した受講生はかなりいましたが、ファドの歴史が意外と新しい(1800年頃?)ことには驚きました。

もともと好きなメロディにアドリブの詩を付けて10番、12番と長々歌われたファドが、レコードの登場で短くなったことや独裁政権サラザールによってファドが黄金期を迎えたこと、ファドの2大女王の話、1974年の「無血革命」でサラザール体制が崩壊しファドも低迷したことなどがよく分かりました。



ポルトガルがEUに加盟し文化を顧みることがきっかけとなり、ファドが再評価されたそうです。またファドの演奏に不可欠のギターは弦が12本で、2本ずつセットの同音または1オクターブ違い、右手人差し指と親指だけで弾くことも特徴的です。

まだ暫くはポルトガルを訪れるのは難しいですが日本でのコンサートに行ってみたくなりました。